

介護療養病棟での半年間の取り組み

～患者様と職員の安心・安全を守るために～

〈理念〉

生命の尊さを知り、隣人を愛する心を基本に利用者
と地域を癒し、なおかつ自分自身が成長できる組織
を目指します。

〈基本方針〉

地域に密着したトータルで良質の医療・介護サービ
スを提供します。

〈病棟紹介〉 ※2019.12現在

- 医療療養病棟 104床
- 介護療養病棟 49床 ※取り組み病棟
- 回復期リハビリテーション病棟 30床
- 地域包括ケア病床 16床



医療法人 春風会

田上記念病院

中川朋子（作業療法士）

はじめに

介護療養病棟の患者背景は要介護度は4.8。長期臥床により、ほとんどの患者は拘縮もあり、生活全般の介助に苦慮していた。看護職員18名、介護職員10名で4割の職員が60歳以上であった。日々のケアの中では患者を抱え上げたり、持ち上げてしまう現状があった。

2019年7月に病棟職員対象に自記式調査を行い、腰痛ありと回答した職員が約70%を占めていた。腰痛原因を調査し、ベッド⇄ストレッチャーへの移乗が腰への負担が多く、危険度が高いことが明らかになった。他には車いす移乗動作やおむつ交換が挙げられた。

腰痛予防対策を開始した2019年7月～2019年12月までの半年間の取り組みについて報告する。

取り組み① ベッドの高さを上げる

以前

ベッド低床で柵をはずさない。



現在

ベッドを適切な位置に上げて、柵をはずしている。



ベッドが低いと
腰が痛いから、
必ずベッドを
上げている

腰を曲げる角度を減らす

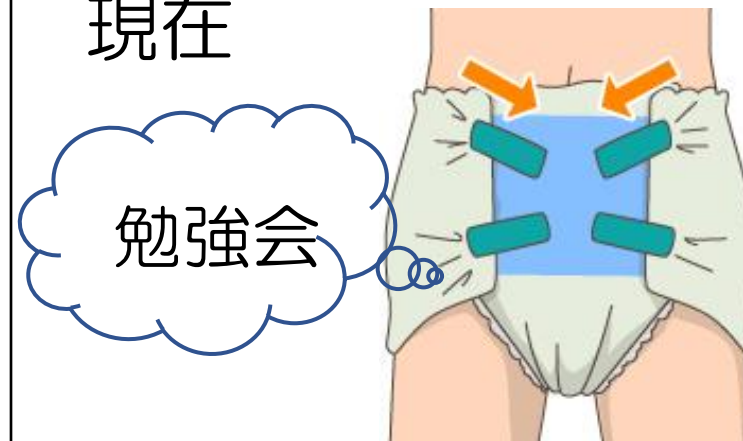
取り組み② おむつ交換の時間を減らす

以前



大きすぎるおむつ
適切にあてられていない
下剤の量
一人介助（準備～片付け）9分30秒
※排便処理や衣類、シーツまで交換
12分

現在

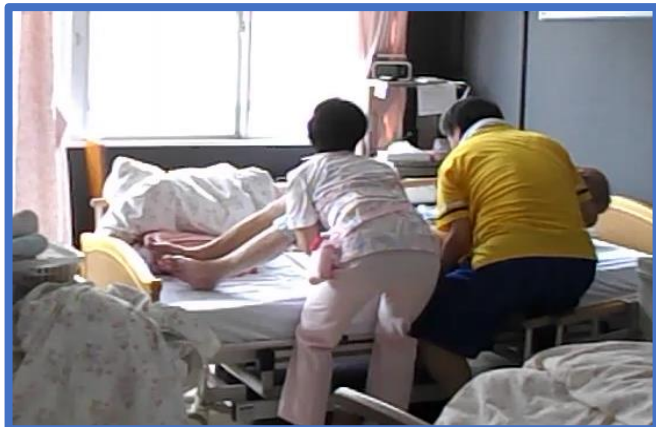


★排泄物がおむつ内で収まるように
適切なおむつのサイズ
適切な当て方
下剤の量を調整
一人介助 7分40秒
2人で無理せず介助 4分20秒

取り組み③ ベッド⇔ストレッチャー間 **持ち上げない**

以前

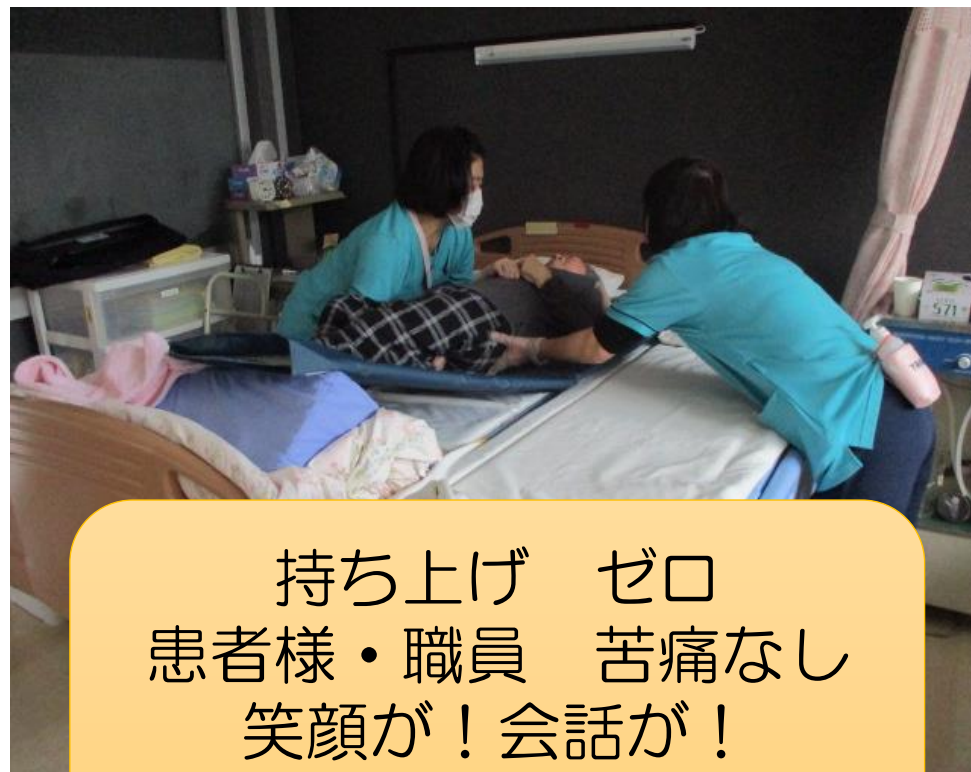
2人や3人でお姫様抱っこ。患者様や職員の安全が保たれない。



15人×2往復/日（ベッドと浴室）=30回
持ち上げ時間 5~10秒

現在

移乗ボード使用。
ベッドやストレッチャーの準備 1分20秒



持ち上げ ゼロ
患者様・職員 苦痛なし
笑顔が！会話が！
観察もできる！

取り組み④ **かがまない、持ち上げる、ひねる時間を減らす**

患者10人×2往復（昼、夕）＝20回

以前

腰を曲げる角度大

持ち上げ&ひねり



現在

腰を曲げる角度小
持ち上げ&ひねり小

移乗ボードで
滑らせる



問題① 準備に時間がかかる

ベッドやストレッチャーの準備 1分20秒



一人がストレッチャーを準備している間

もう一人の職員は

⇒お風呂の準備

⇒ベッドの高さ調節

⇒ベッド周りの準備

⇒患者の観察、リスク観察

問題② ベッドやストレッチャーを動かしにくい

以前

コードが
キャスターに
引っかかり、
移動が大変



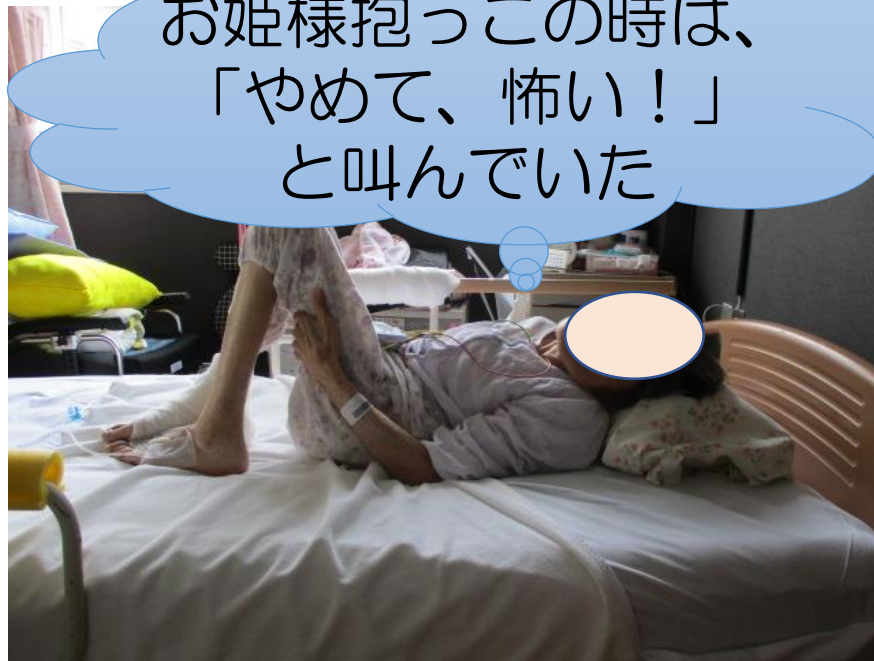
現在

コードがキャスターに
かからないように固定

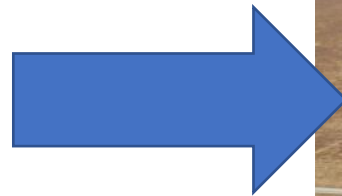


患者様にとってのメリット

適切な車いすで離床を促し、二次障害を防ぐ



膝が拘縮し、ベッド上で食事介助。肺炎を繰り返していた。



自分で食事ができるようになった。テレビを観たり、話をして笑ったり。肺炎も減少しました。

結果

ベッド⇄ストレッチャーの移乗の抱え上げがなくなった。

腰痛有痛者が50%となり、**20%減**となった。

病棟職員の感想

- 抱え上げないケアの導入で、身体に負担なく仕事を休まず仕事ができる。
- 患者様の苦痛、不安が軽減できていると思う。
- 腰に安心、安全。楽になった。
- 力を入れなくてもすむ。時間をかけなくてすむ。
- スタッフ全体の表情が明るくなった。お姫様抱っこをしている時は冷や汗をかきながら怖かったです。今のやり方は安心感があります。
- 妊娠中でも力を入れなくても移乗することができ、赤ちゃんへの負担も軽減できたので、安心して仕事ができる。